

六本松の今昔物語



六本松の歴史と名前の由来

古くは「早良郡鳥飼村大字谷六本松」と呼ばれ、大正8年に鳥飼村から福岡市となりました。その昔、六本松の地名はこの辺りは「六本の松」の集団があったことから付いたという文言が貝原益軒の「筑前国続風土記」に記載されています。

遠征から戻ってきた福岡城下を目指す武士達が六本松辺りにたどり着いた時に何も目印が無いことから、福岡に近づいた目印として松を植えたという説、鷹狩から帰る途中、現在の六本松辺りが寂しかった黒田藩主が「寂しい場所じゃ」と木も生えていな



▲ 昭和初期の六本松一帯

い崖をみて「松を植えるがいい」と6本の松を植えたとされ、その経緯で中央区六本松の名前が付いたとされる説などがあります。



▲ 六本松地区の中心地でもある国道202号線はいつも交通の激しい道路である。

現在の国道202号線（別府橋通り）は、豊田秀吉が朝鮮出兵の際に開いたといわれる道で「太閤道」と呼ばれ、古くから博多から肥前方面への往来に使用される道でした。福岡城築城にともない城下町が栄え人口も急増してからは、武士や旅人、商人などの往来がいっそう激しくなり、

六本松は交通の要所として欠かせない土地になりました。

また、藩主を乗せた馬は今の谷地区である馬屋(馬谷)に繋がれていたが、馬のいない現在は地名が谷へと変更になったといわれています。

ちんちく堀に谷わくろう？

福岡に残るこの奇妙な言葉。「ちんちく堀」は「ちん竹の生垣」、「谷わくろう」は「谷のがまがえる」という意味で、「ちん竹の生垣の住居に住む谷の下級武士」を表しています。当時の赤坂山の48谷、現在の六本松3丁目から谷には多くの下級武士が住んでいたことをこの言葉は物語っています。

今は無寺青陵の杜と新しいまち



▲ 九州大学 旧六本松キャンパス本館

国道202号線（別府橋通り）に面した六本松4丁目には1921年（大正10年）11月9日に福岡高等学校が設立され、翌年4月に開校されました。この旧制福岡高等学校は1949年（昭和24年）の新制大学発足時に旧制高校が統合され、九州大学の一部となり1963年（昭和38年）に九州大学教養

部が置かれて以来、九州大学の一般教養教育が実施されていました。九州大学の西区への移転が決まり2009年（平成21年）3月に閉校。旧制福岡高等学校から九州大学へ続いてきた学びの杜（青陵の杜）は88年の歴史に幕を閉じました。跡地は2010年（平成22年）3月に売却、2017年3月よりマンション、大学院や科学館などの複合施設が順次OPEN、2019年（平成31年）までに福岡高裁、福岡地裁、福岡地検等の司法関係施設が建設されていく予定です。古き良き街、文教地区に新しい「まち」が加わり新たな歴史が刻まれていきます。



▲ 開発の進む新しい「まち」 2017年3月現在